

たことは、前回の『SLAVISITKA』第13号352ページにも報告した通りだが、幸い、その後関係者の努力が実って、ロシア国立人文大学とは1998年3月23日に、モスクワ国立大学とは1998年4月7日に、それぞれ学術交流協定が締結された。

モスクワ国立大学との協定の場合は、同大学のサドヴニチイ総長が来日の際に東京大学に蓮実重彦総長を訪問され、両総長が署名した協定書を直接交換するという歴史的な調印式が実現した（その場には、本学の側のロシア関係者として、和田春樹名誉教授、桑野隆・総合文化研究科教授と、沼野の3名が立ち会った）。

東京大学がソ連ないしロシアの大学と全学的な学術交流協定を結ぶのは、歴史上これが初めてのことであり、日露両国の関係が新たな段階に入ろうとするいま、両国の大学間でもこのような形で学術交流を深めようとする機運が高まってきたことは、歓迎すべき第一歩であろう。当面、東大側で、ロシア国立人文大学との交流に関する折衝を担当するのは総合文化研究科、モスクワ国立大学との交流に関する折衝を担当するのは人文社会系研究科となるが、これらの協定は「全学協定」として位置付けられるもので、特定の学部・部局だけの利害に関わるものではない。どちらの大学との交流も、われわれの学科の教官・学生全員にとって大きな意味を持つものであり、今後、両大学との間で留学生のやりとりや研究者の交換など、様々な形での交流の機会が増えることが期待される。

* * * * *

俳優セルゲイ・ユルスキー氏と

バレエ評論家ヴァジム・ガエフスキー氏を迎えて

モスクワは演劇の都でもあり、町のいたるところに散らばる大小の劇場では、夜ごとにさまざまなバレエやオペラ、ストレートプレイやコメディが上演され、都市生活の重要なパートをになっている。1998年には、幸い、ロシア演劇に関連するイベントが続き、このうち、劇団銅鑼の招聘で『ヨン・ガブリエル・ボルグマン』（イプセン原作）を演出するために来日したロシアの名優セルゲイ・ユルスキー氏を4月9日に、またバレエ・リュスとセルゲイ・ディアギレフをテーマに行われた「東京の夏音楽祭」のシンポジウム参加のために来日した、バレエ評論家でありロシア人文大学の演劇評論家主任でもあるヴァジム・ガエフスキー氏を7月21日に研究室へ招き、話を伺う機会を得られた。日頃は残念ながら触れる機会になかなか恵まれないこれら芸術ジャンルについて、演じ手および評論家の、ともにモスクワの第一線で活躍する人々に親しく接することが出来たのは

貴重な体験であった。

チェックの蝶ネクタイに濃茶のツイードのスーツを着たユルスキー氏の講演は、ロシア文学と演劇とをテーマに1時間半に及ぶミニ・ステージ仕立て。山之内重美氏による詳しい紹介のあと、19世紀のロシア文学作品から詩や散文を朗読してくれた。『オネーギン』からの朗読には、音声化されたロシア語の美しさにあらためて感銘し、ガルシンの『蛙の旅行家』には大笑いした。熱演するユルスキー氏が、次第に蛙に見えたり、野鴨に見えたりするのが不思議である。蛙が野鴨たちと空を飛ぶ方法を思いつく場面など、いったいいつの間に仕込んであったのか、テレビの裏から1本の細い枝を取り出して、口にくわえて見せれば、いやほんと、蛙はきつとこんな枝にぶら下がって、バタバタと風に揺れながら野鴨たちと一緒に飛んで旅をしたに違いない、と、情景がありありと浮かぶのだ。ちなみに、あと一言で蛙の大冒険を語り終える段になって、ゆらり、と日本名物の地震に見舞われたが、そんなハプニングさえ、楽しんでしまうようだった。現代作品では、親交のあったプロツキーの詩を、独特の節をつけて朗読し、思いがけない魅力を発見できた。音声という要素はロシアの文学作品に驚くような可能性をもたらすのである。

ガエフスキー氏は、私生活でもユルスキー氏と親しいそうだが(住むのも近所らしい)、世代的なこともあってか、現代演劇を論じながら、モスクワの現在や将来を対する危惧をユルスキー氏と共有していた。とりわけチャーホフやドストエフスキーなどをはじめとする古典作品を侮辱したり軽蔑したりするようなモスクワの流行を指摘し、モスクワを代表する演出家に、つぎつぎと辛口の批評を加えていった。短い滞在期間のためにスケジュールが押してしまい、バレエやオペラの話聞く十分な時間がなかったことは残念だが、辛らつさをユーモアでくるむその語り口に、演劇を厳しく育てるロシアの批評家の強さを垣間見ることが出来た。

また、ユルスキー氏やガエフスキー氏、ロシアの芸術をこよなく愛するお二人それぞれと、講演会というどちらかというところであらたまった場だけではなく、ごちんまりとした空間で和やかに同じ卓を囲むという贅沢な時間を和やかに過ごせたことも忘れがたい思い出になるだろう。

(楯岡 求美・記)

ロイ・メドヴェージェフ氏来訪

1998年10月3日、ロイ・アレクサンドロヴィチ・メドヴェージェフ氏の講演が本郷キャンパスにて行われた。氏はかつてのソ連においてサハロフ博士やソル